取扱い説明書

おねがい

お客様のお問合せやご質問の中には，説明書をよくお読みにならないために，ミシンが故障であると判断されたり，又は間違った操作で機械の調子をそこねたりする場合が，少なくありません。
ぜひ説明書をよくお読みになって正しくご愛用下さい。

取扱い説明書は大切に保存しましょう。

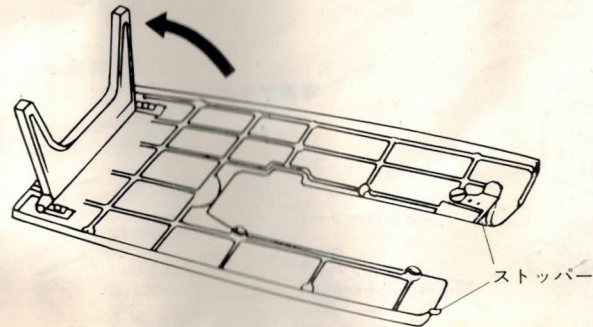
HAPPY *F-I*

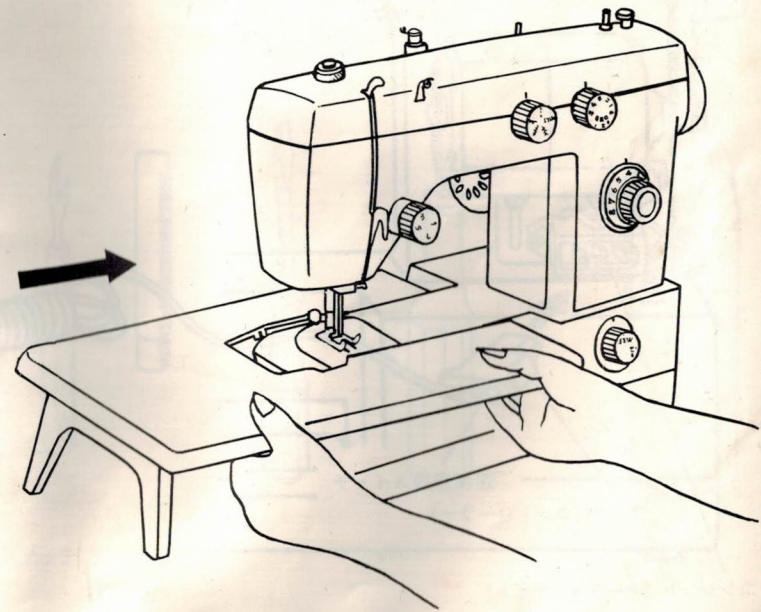
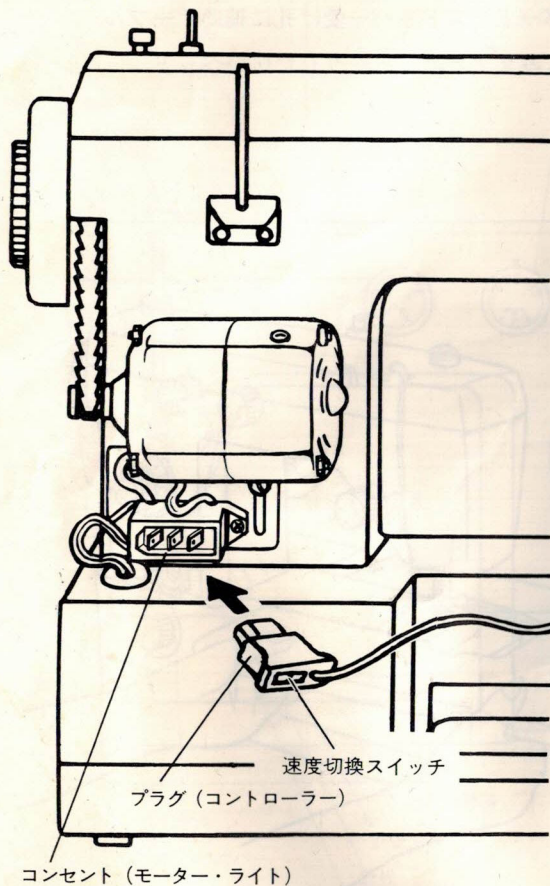
目　次

各部の名称

ダーナー
糸巻糸案内
パターン セレクト
ダイヤル
糸巻軸
ハズミ車
天秤
糸掛
ジグザグ
ダイヤル
糸巻制限筒
ストップ モーション
面板
ストッパー
受け孔
上糸調節器
押え
針止ネジ
フロント カバー
針板
針棒
ライト スイッチ(内側)
ドロップ ヒード ダイヤル
逆送りボタン
送りダイヤル
糸立棒
アーム カバー
押え上
押え棒

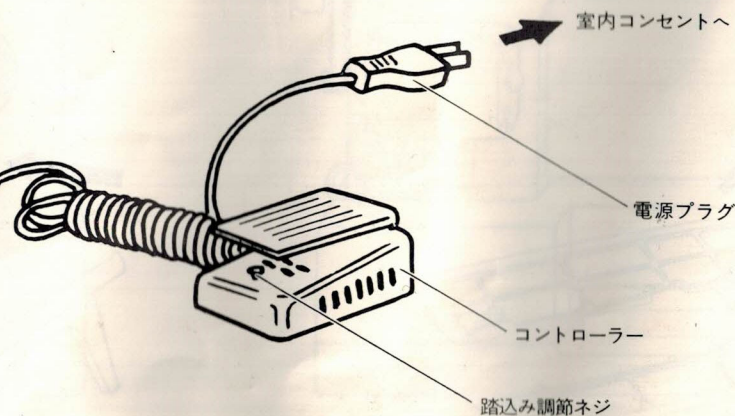
フリーアーム ミシンについて

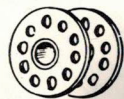
フリーアームがミシンの性能を一段と拡げました。袖口やズボンの各部の縫いは勿論，筒ものに，アップリケ，テープつけ，つくろい縫いや，刺しゅう等が容易に出来ます。

補助テーブルの取りつけ方

普通裁縫には，筒型ベッドのストッパー受け孔に補助テーブルのストッパーをはめこみますと，しっかりした広いベッドになります。

モーター運転の仕方

●速度切換スイッチ

スイッチの操作で、縫いスピードが低速，高速に切り変わります。
ボタンホール縫いなど複雑な縫いの時，ゆっくりスタートしたい時は，低速で，直線部分の縫いは高速で広い範囲で自由に縫いスピードを選べます。

●踏込調節ネジ

ネジの出し入れ調節によって，コントローラーを一ぱいに踏み込んだときのミシンのスピードを御自分に適した速度にセットすることが出来ます。

ご注意　ミシンを御使用にならない時は必ず電源プラグをぬいて下さい。

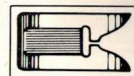
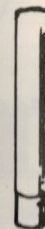
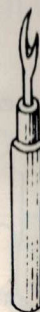
附属品箱の内容

ボビン

針

フェルト

ボタン付押え

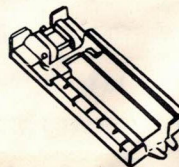
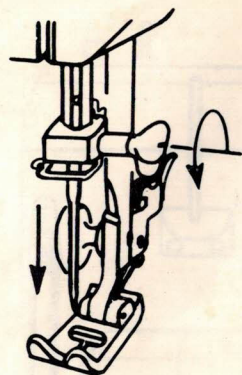
三つ巻

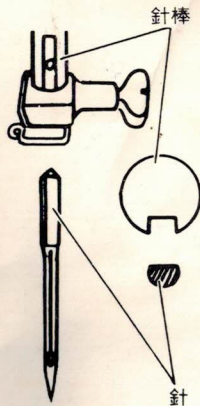
刺しゅう縫い押え

縁かがり押え

直線縫い押え

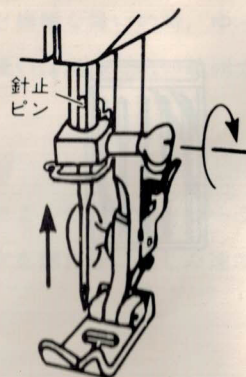
ボタンホール押え

ステッチ リッパー

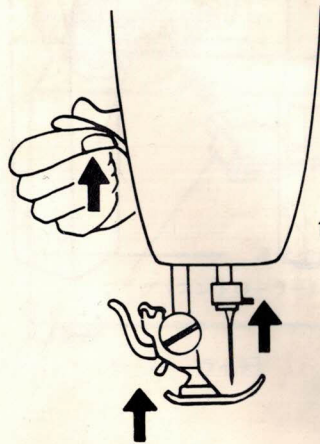
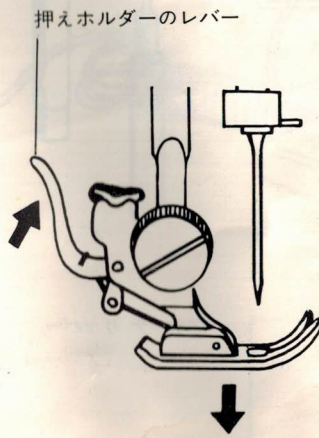
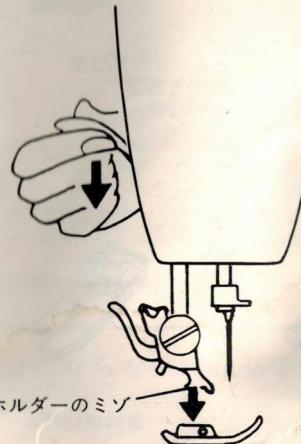
ドライバー

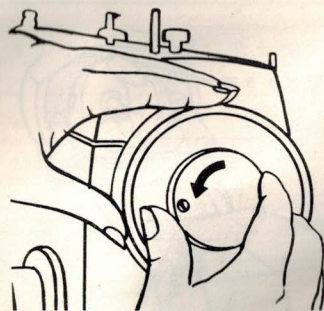
油差し

針の取りつけ方

1．針の取外し

ハズミ車を廻し，針棒を最上部に上げ，次に針止ネジをドライバーでゆるめます。

2．針取付面の確め

針の平らな面を，針棒の溝の方へ向けます。

3．針の取付け

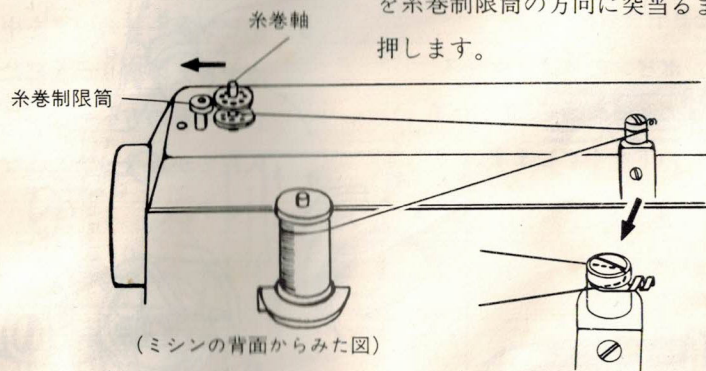
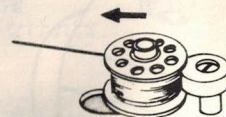
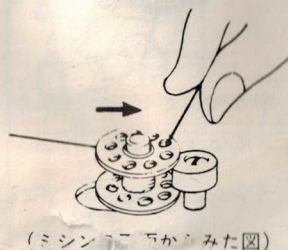
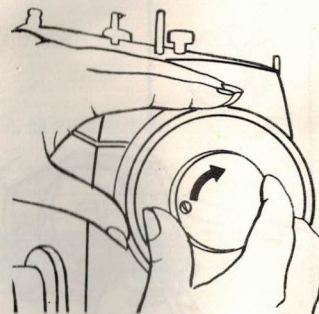
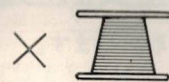
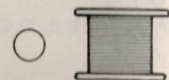
針を針棒の溝部の針止ピンに突当るまで挿入し，針止ネジをドライバーで固く締付けます。

押えの取りかえ方

1．針棒を最上部に上げ，押え上げを上げます。

2．押えホルダーのレバーを矢印のように押しますと押えが外れます。

3．ご使用になる押えを，押えホルダーのま下に置き，押え上げを静かにおろしますとセットされます。この場合ダーナーは普通縫いにし[illegible]さい。

下糸の巻き方

1．ハズミ車のストップ モーション
を矢印のようにゆるめます。

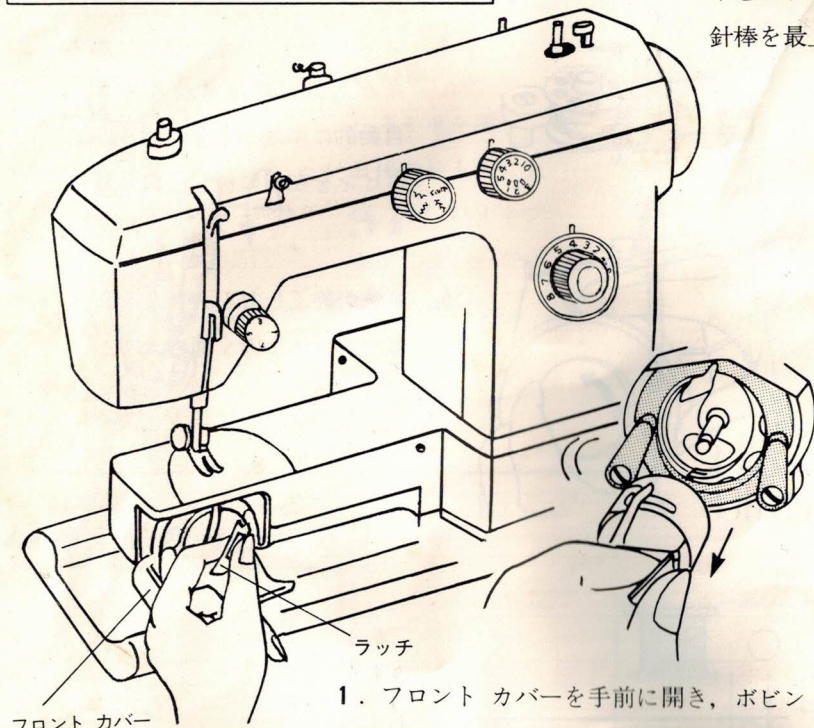
2．図のように糸を通した後，ボビン
を糸巻制限筒の方向に突当るまで
押します。

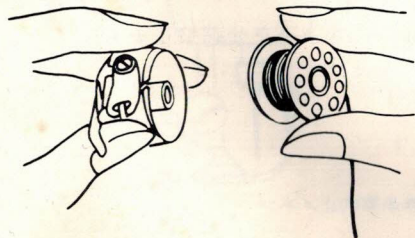
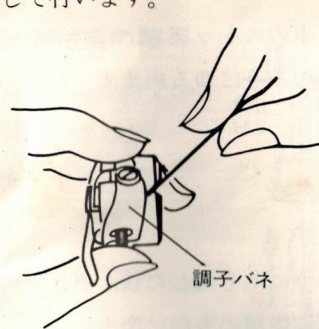
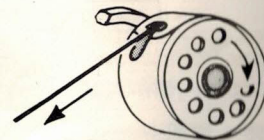
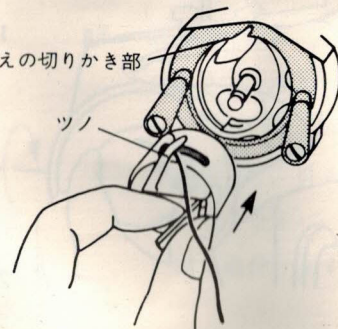
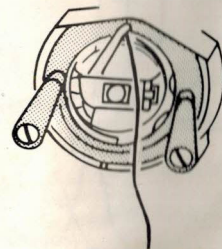
（ミシンの背面からみた図）

（ミシンの正面からみた図）

3．ボビンのつばの内側から糸を
通し指で軽く摘み，コント
ローラーを軽く踏んで糸が
ボビンの芯に７～８回巻き
ついたら，指でつまんでいる
糸をきります。

4．コントローラーを一ぱいに踏み
糸が八分目程度巻かれると，
自動的に糸巻が止まりますから，
ボビンを左側に押して取り外し
ます。

5．糸巻が終了したら，ストップ
モーションを固く締めます。

図のようにボビンに糸が片巻になった
場合は，糸巻糸案内止ネジをゆるめて
糸案内を上下させ調整します。

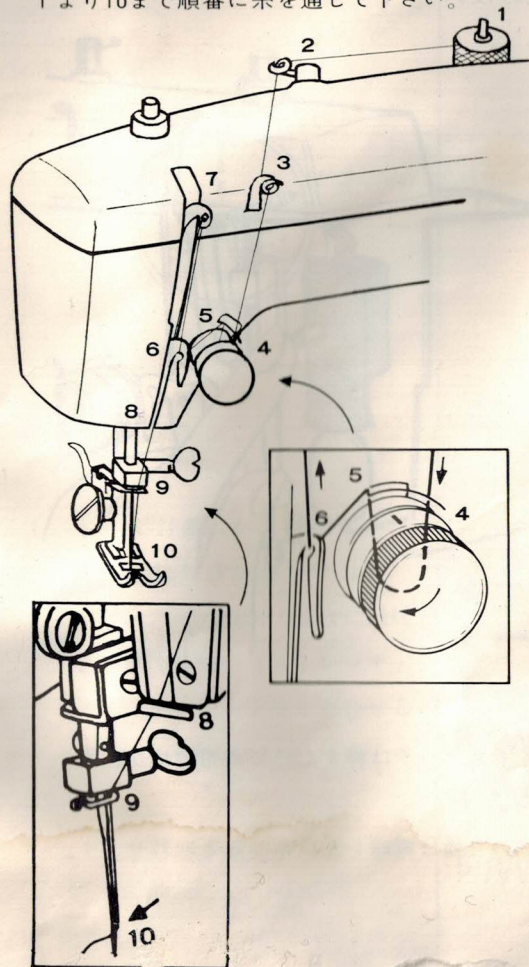
ボビンケースの糸通し

ボビンケースの出し入れはハズミ車を手前に廻し，針棒を最上部にして行います。

ラッチ

フロント カバー

1．フロント カバーを手前に開き，ボビンケースのラッチをつまみ，一ぱいに開いて，ボビンケースを取出します。

2．ボビンケースにボビンを入れます。
（ボビンの糸巻方向は図のようにします。）

3．ボビンの糸は，ケースの糸道を通し，調子バネの下をくぐします。

4．糸を引張ると図のように，ボビンが回ります。

5．ボビンケースのツノを中ガマ押えの切りかき部に合わせ奥の方へ一ぱいに入れてからラッチをはなします。

6．中ガマにボビンケースがきちんと入っていないとミシンの運転中にはずれたり，故障の原因となります。

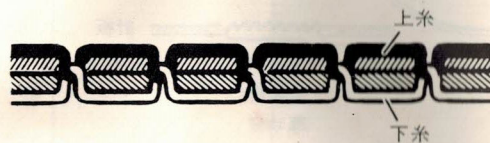
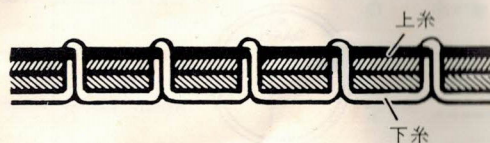
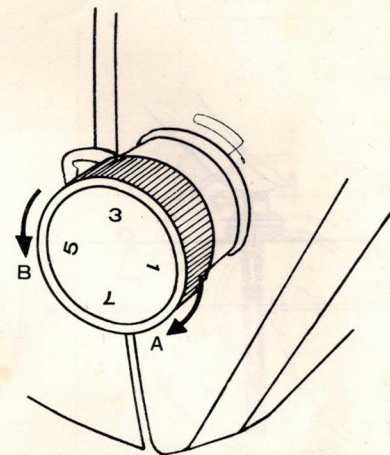
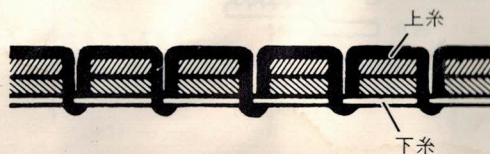
上糸のかけ方

１より10まで順番に糸を通して下さい。

上糸調子の取り方

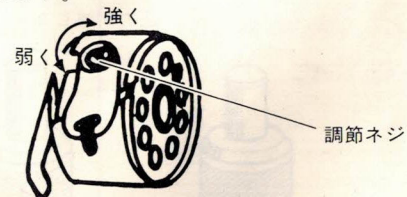
上糸と下糸の張力はつり合っていなければなりません。

この調節は殆んどの場合，上糸の調節だけで間に合います。

○正しい糸調子

上糸と下糸が，ちょうど布地の真中で結び目を作ります。

○上糸が強すぎるとき，又は下糸がゆるすぎるときは，図のようになります。

○上糸がゆるすぎるとき，又は下糸が強すぎるときは，図のようになります。

○上糸の張力を強くするときは，上糸調節ツマミをＡ方向へまわしてください。

○上糸の張力を弱くするときは，上糸調節ツマミをＢ方向へまわしてください。

○張力をためすときは，必ず押えを下げた状態にします。

下糸の張力はボビンケースの調節ネジで調節しますが，この調節が必要になるのは極く稀れです。

各部の操作

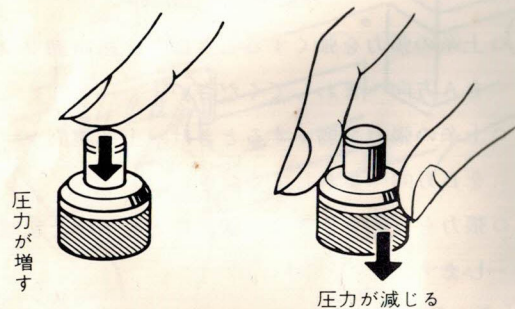
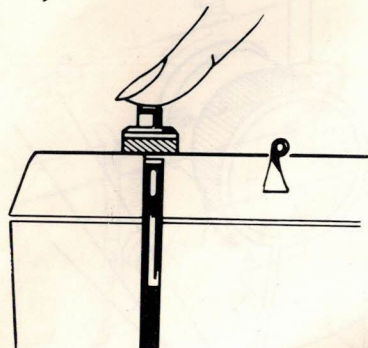
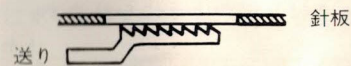
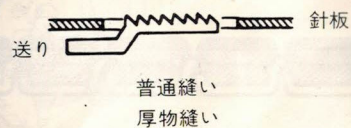
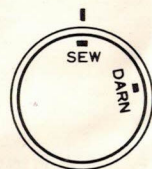
ダーナー

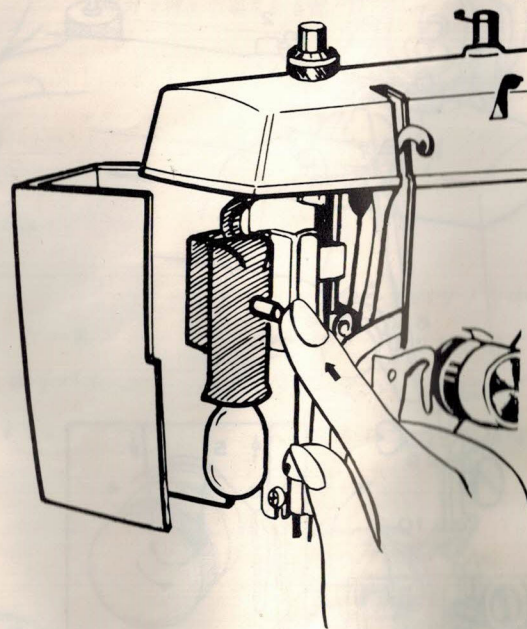
針板

送り

普通縫い
厚物縫い

針板

送り

刺しゅう縫い
ボタン付

電球及スイッチ

ライトスイッチは押すだけで点燈消燈が出来ます。

電球の交換は電球を左にネジると取外せます。

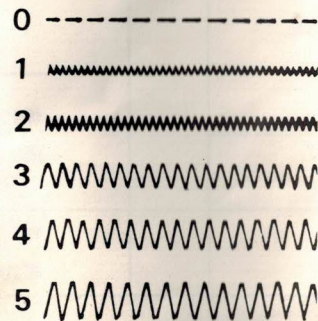
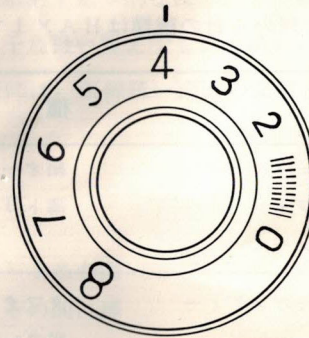
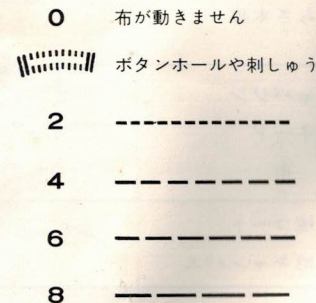
各ダイヤルの機能

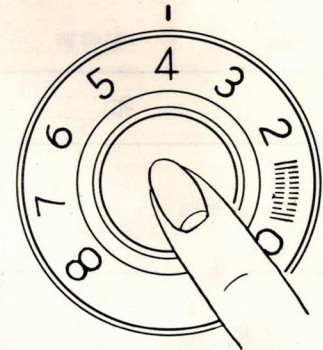
パターン セレクト ダイヤル

1．本格派 洋裁にかかせぬ，まつり縫い，裁ち目かがりは勿論，ジャージーやニットウェヤに絶対必要な伸縮縫い（ストレッチ・ステッチ）がダイヤルを合せるだけで，どなたにも美しく仕上ります。

ジグザグ ダイヤル

ジグザグ縫の巾

0
1
2
3
4
5

送り ダイヤル

縫目の大きさ

逆送り ボタン

逆送り

逆送りボタンを，突き当るまで押していると，布は手前の方に送られ，縫目の大きさは正送りと同じです。これは止め縫いにも便利です。

布地と針と糸の関係表

お縫いになる布地の種類により，針と糸は下表の番号のものを選んで下さい。これはミシンの機能を充分に生かし，美しく仕上げるための大切なポイントです。

（本機に用いる針の種類はＨＡ×１であります）

布地の種類			糸の番号	針の番号
極薄地	チュール シフォン 薄レース	絹オーガンディー 薄トリコット	綿80～120 絹80	9
薄　地	オーガンディー 薄ジャージー ボイル	タフタ 絹クレープ	綿60～80 絹50	9～11
普通地	ギンガム ピ　ケ リンネル さらさ木綿	サテン 薄コーデュロイ 一般服地	綿50～60 絹50	11～14
厚　物	ギャバジン ツイード 帆　布	デニム オーバーコート地 カーテン地	綿40～50 絹50	14～16
極厚物	厚地コート 厚地キャンバス		綿30～40 絹30	16～18

ご注意　伸縮性化繊地（ジャージー，トリコット）には，ニット針（柄の先端が紫色）を使用すると，目とびや糸切れを防ぐのに効果があります。

いろいろな縫い方

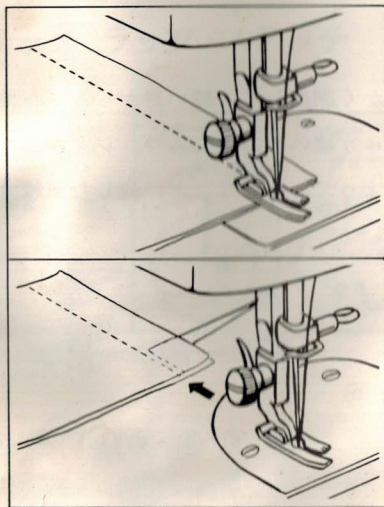
図に示めしているダイヤルで⌒印のついているダイヤルは，その範囲で適当な目盛を選ぶことを表わします。

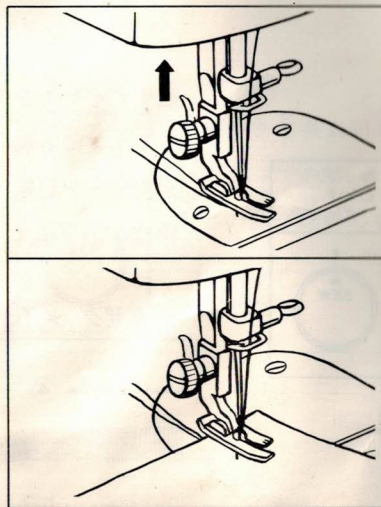
直線縫い

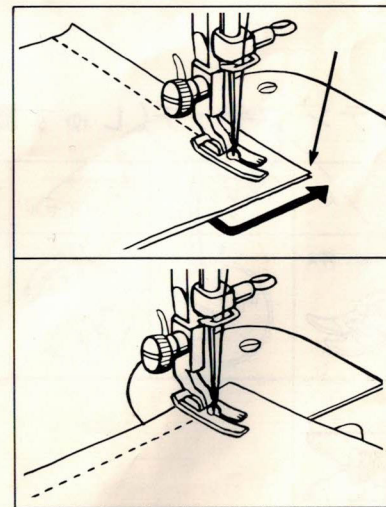
押え	パターンセレクトダイヤル	ジグザグダイヤル	送りダイヤル	ドロップヒードダイヤル
直線縫い押え	STRETCH▸	5 4 3 2 1 0	6 5 4 3 2	SEW

下図に示めす基本的な操作法を，練習してマスターしますと大変便利です。千鳥縫い押えでも直線縫いは出来ますが，薄物縫いや，きれいな縫い目には，直線縫い押えの使用をお奨めします。

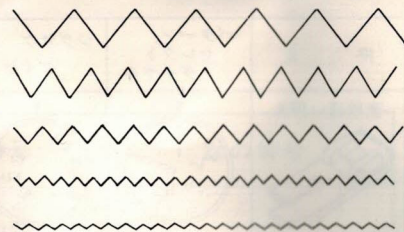
縫い終り

逆送りで止め縫いをして，天秤を最高の位置に保ち，押えを上げて布をずらし，6～7cm糸を残して糸を切ります。

縫い始め

縫い終りの状態で上糸・下糸を図のように揃えて，布をその間に挿入します。

方向を変える

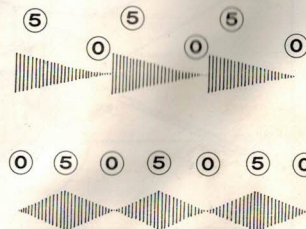
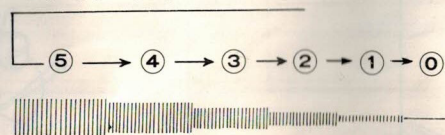
針を刺したまま，押えを上げて，針を芯棒にして，布をまわします。

ジグザグ縫い

押え	パターンセレクトダイヤル	ジグザグダイヤル	送りダイヤル	ドロップヒードダイヤル
千鳥縫い押え	STRETCH	5 4 3 2 1 0	7 6 5 4 3 2	SEW

ジグザグ ダイヤル 目盛	送り ダイヤル 目盛	ジグザグ縫い
5	8	
4	5	
2	4	
1	2	
½	2	

ジグザグ ダイヤルと送りダイヤルの目盛の組み合せで図のように様々なジグザグ縫いが出来ます。

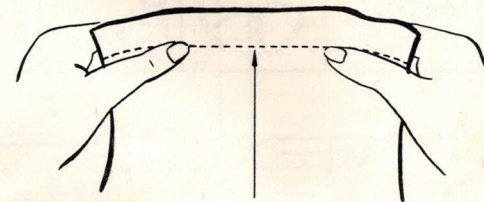
サテン ステッチ(しゅす縫い)

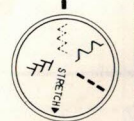
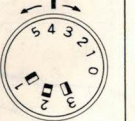
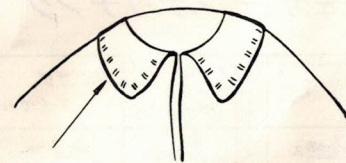
押え	パターンセレクトダイヤル	ジグザグダイヤル	送りダイヤル	ドロップヒードダイヤル
刺しゅう縫い押え	STRETCH	5 4 3 2 1 0	4 3 2 0	SEW

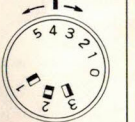
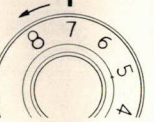
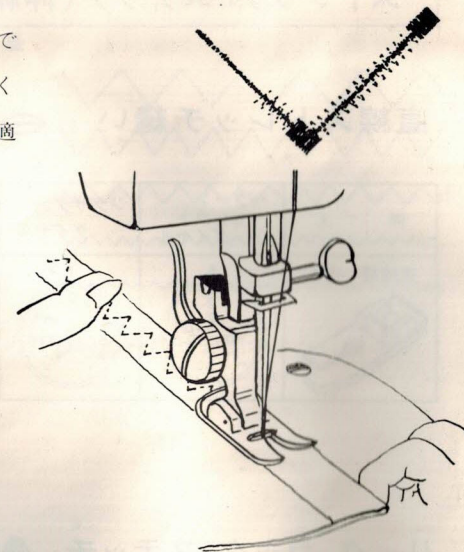
送りダイヤルを ||||||||| に合せ0に近かく調節して，縫い目がしゅす布地のような密着縫いを求めます。刺しゅう縫いの基本であり，ジグザグダイヤルを周期的に操作することによって，縁飾りなどに適した連続模様が出来ます。

ストレッチ ステッチ（伸縮縫い）

直線ストレッチ縫い

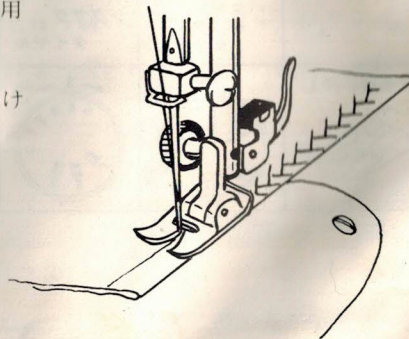
押　え	パターン セレクト ダイヤル	ジグザグ ダイヤル	送り ダイヤル	ドロップ ヒード ダイヤル
直線縫い押え	STRETCH	5 4 3 2 1 0	8 7 6 5 4	SEW

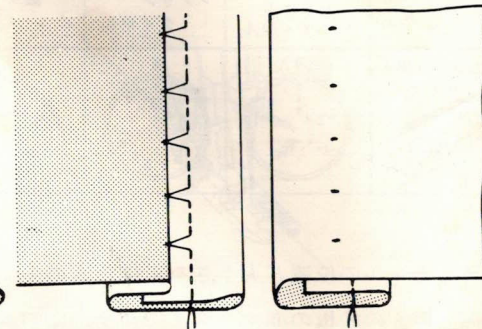
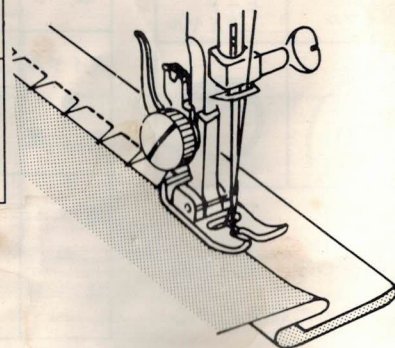
普通の直線縫いに較べると，太い縫い目になりますが，伸び縮みがきき，とても強い縫いで，ジャージーなどの布地の直線縫いに使用します。

リック ラック ステッチ

押　え	パターン セレクト ダイヤル	ジグザグ ダイヤル	送り ダイヤル	ドロップ ヒード ダイヤル
千鳥縫い押え	STRETCH	5 4 3 2 1 0	8 7 6 5 4	SEW

伸縮がきき裏表同じ縫い目でスポーツシャツの衿，カフス，ポケットなどの飾り縫いにも用いられます。

マルチ ステッチ ジグザグ

押　　え	パターン セレクト ダイヤル	ジグザグ ダイヤル	送り ダイヤル	ドロップ ヒード ダイヤル
千鳥縫い押え	STRETCH	5 4 3 2 1 0 / 1 2 3	7 6 5 4 3 2	SEW

最も伸縮縫いに適したステッチで応用範囲が広いものですが，つくろい縫いやパッチあてなどにも適しています。

フェザー ステッチング

押　　え	パターン セレクト ダイヤル	ジグザグ ダイヤル	送り ダイヤル	ドロップ ヒード ダイヤル
千鳥縫い押え	STRETCH	5 4 3 2 1 0 / 1 2 3	8 7 6 5 4	SEW

マルチ ステッチ ジグザグと共に，最も伸縮縫いに適したもので応用範囲が広いものですがニットウエヤやストレッチ レースつけなどに用いると便利です。

ブラインド ステッチ(まつり縫い)

押え	パターンセレクトダイヤル	ジグザグダイヤル	送りダイヤル	ドロップヒードダイヤル
千鳥縫い押え	STRETCH	5 4 3 2 1 0	8 7 6 5 4 3 2	SEW

ボタン付け

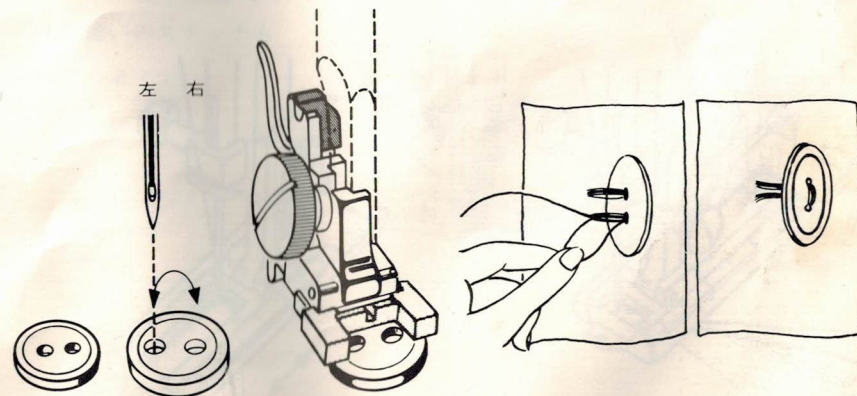
押え	パターンセレクトダイヤル	ジグザグダイヤル	送りダイヤル	ドロップヒードダイヤル
ボタン付押え	STRETCH	5 4 3 2 1 0	3 2 0	DARN

ジグザグ ダイヤルの調節

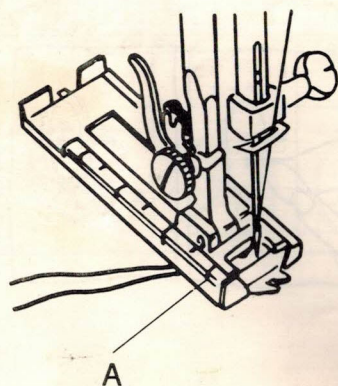
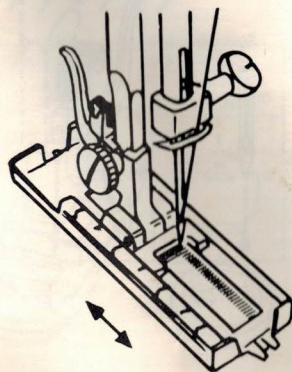
1．4に合せます。

2．ボタンの左側の穴を針に合せて押えを下げボタンを固定します。

3．針がボタンの右穴に合うようにジグザグ ダイヤルを合せ4~5針縫います。

又，ボタンと押えの間に爪楊枝等をおき，ボタンにゆるみを持たせることが出来ます。

ボタンホール縫い

押　　え	パターン セレクト ダイヤル	ジグザグ ダイヤル	送り ダイヤル	ドロップ ヒード ダイヤル
ボタンホール押え	STRETCH	3 2 1 0 1 2 3 4 5	4 3 2 0	SEW

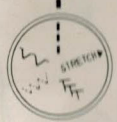
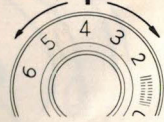
ボタンホールの位置と大きさを正確に布の上に印をつけ，印の手前の端を押えの底板の赤マークAに合せ，印の線が押えの底板の中心にあることを確めてから縫い始めます。

ジグザグ ダイヤルの操作

順　序	1	2	3	4	5
ダイヤルの位置					
縫いの状態					止め縫い

〔注〕止め縫いのときは，ドロップ ヒード ダイヤルを“DARN”にして下さい。

縫い始め (1)

バータック縫い (2)

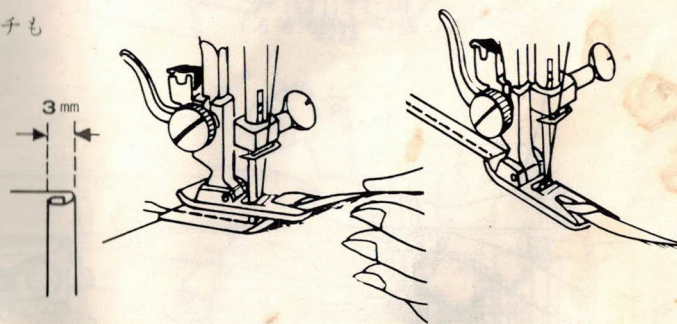
ステッチ リッパーでカットします

裁目かがり

押　　え	パターンセレクトダイヤル	ジグザグダイヤル	送りダイヤル	ドロップヒードダイヤル
縁かがり押え				

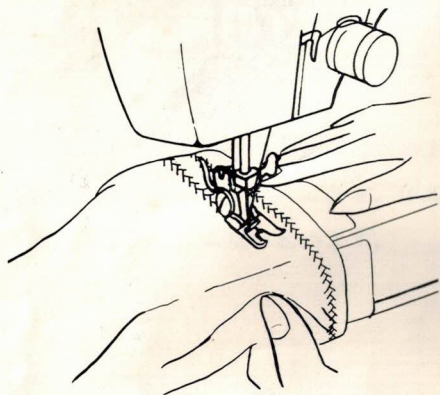
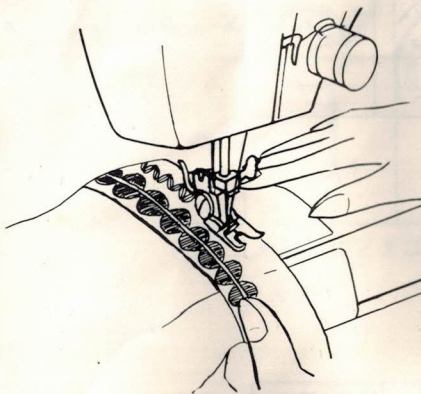
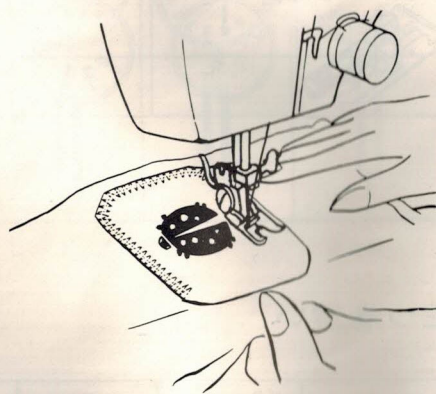
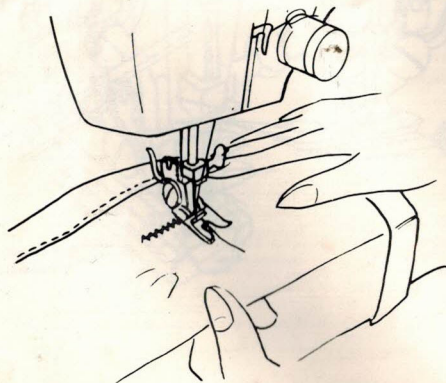
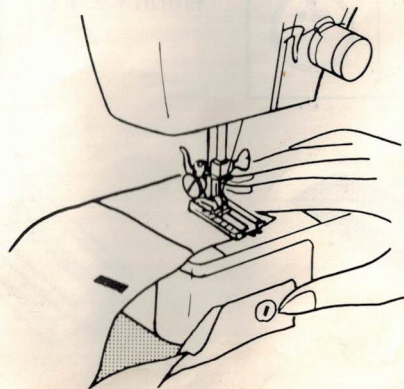
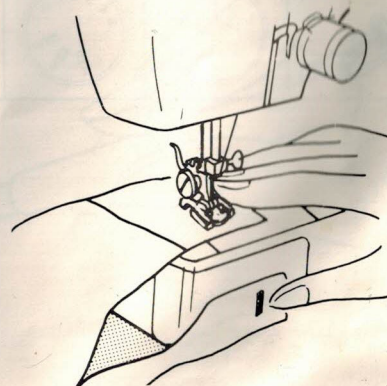
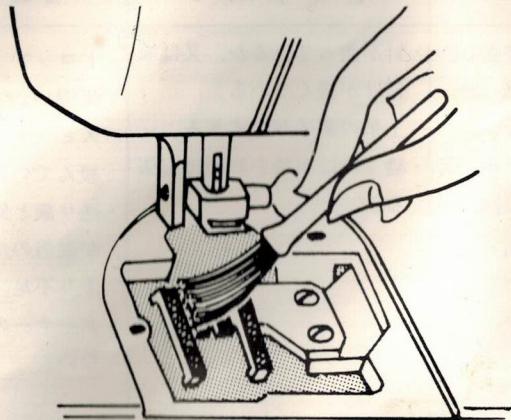
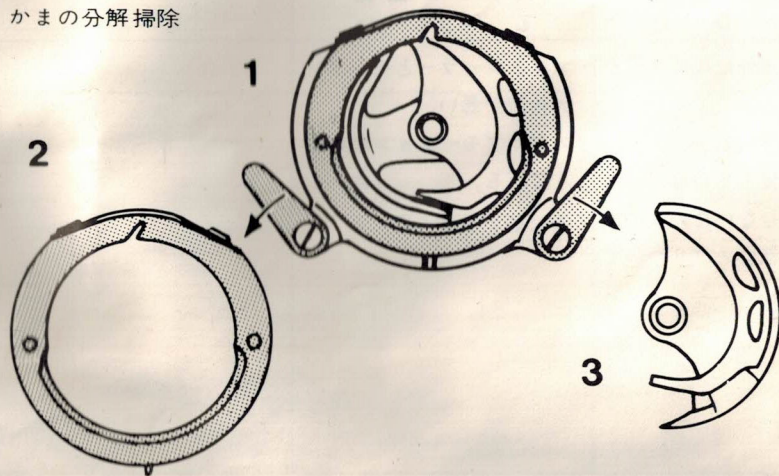
裁目かがりにはジグザグ縫いが利用出来ます。

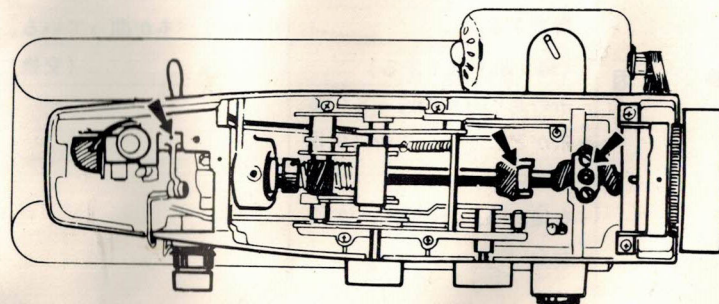
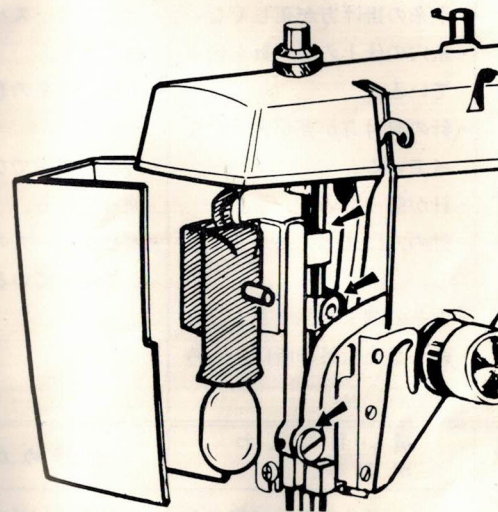
三つ巻縫い

押　　え	パターンセレクトダイヤル	ジグザグダイヤル	送りダイヤル	ドロップヒードダイヤル
三つ巻押え				

直線縫いばかりでなく伸縮縫いのステッチも利用出来ます。

フリーアーム ソーイング

このフリーアームミシンは，普通ベッドのミシンで縫いにくい袖やズボンなどの筒状のものを縫うのに大変便利です。

Tシャツの袖口に伸縮縫いの飾り模様

Gパンに飾りテープを付ける

ズボンのひざにアップリケを付ける

つくろい縫い（かぎざき）

ボタンホール縫い

ボタン付

ミシンの手入

かまの分解掃除

注油の個所

(アーム カバーを外し，面板を開き
矢印の部分に注油して下さい。)

故障の原因と調整

故障の状態	上糸が切れる	下糸が切れる	縫い目が飛ぶ	針が折れる	布送り不充分
原因	・上糸の掛け方が正しくない。 ・糸穴の仕上の悪い針を使っている。 ・針の取付方が裏がえしになっている。 ・針が曲っている。 ・針の穴に比べて糸が太すぎる。 ・上糸の調子が強すぎる。 ・糸が必要以外の所にからみついている。	・ボビンケースバネの調節が強すぎる。 ・ボビンの糸の巻き方が不均一。 ・外形の真円でないボビンを使っている。　（交換） ・ボビンケースの糸の通し方が間違っている。	・針に比べて糸が強すぎる。 ・針が曲っている。 ・針の取付が正しくない。 ・中ガマの先が折れたか，又は鈍くなっている。（交換）	・針が曲っているか，又は取付けが緩んでいる。 ・上糸の調子が強すぎる。 ・縫う時に布地を無理に引張る。	・ドロップ ヒードの位置の間違い。 ・ストップ モーションが緩んでいる。 ・送り歯と針板の間にホコリが凝着のため，送り歯の上り不足。 ・ダーナーの位置が正しくない。

故障の状態	縫い目にしわがよる	糸締めが悪い	廻転が重く音が高い	ミシンが廻転しない	
原因	・上糸，下糸の調子が強すぎる。 ・送り歯の針板からの高さが高すぎる。 （送り歯を低くする） ・糸の通し方が間違っている。 ・糸がどこか余分の所に引掛っている。 ・布地，糸，針の関係が釣合わない。	・上糸調子が弱すぎる。 ・ボビンケース調子バネの調節が弱すぎる。 ・糸取りバネが曲っている。（交換）	・中ガマ大ガマに埃や糸屑が入っている。 ・油がきれている。 ・悪い油を使っている。 ・永く使用しないために，油が埃と一緒にこびりついている。	・コントローラーとモーターの接続が悪い。 ・ストップモーションがゆるんでいる。　（締める） ・釜に糸がからんでいる	